

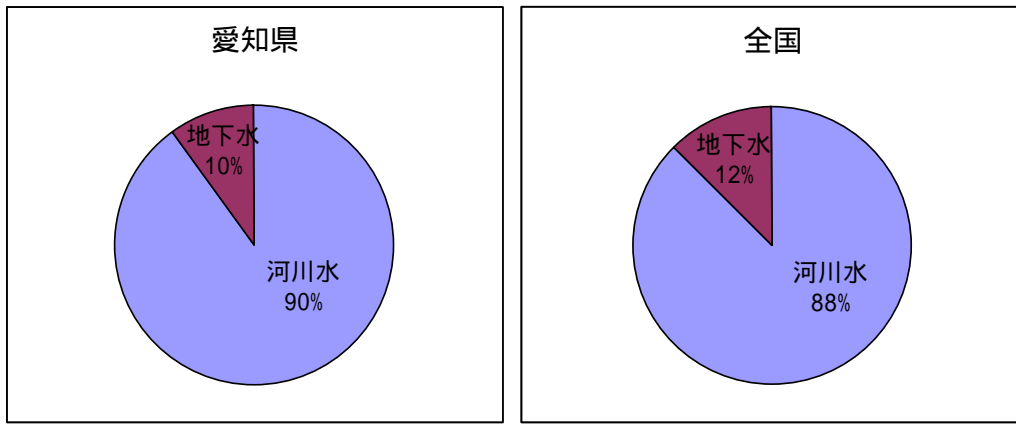
## 第2回あいち水循環再生検討会での意見に対する見解

### 1 本県の水利用の全国との対比

#### (1) 河川水と地下水の内訳

本県の水利用について、河川水と地下水の比率に着目し、全国データと比較したところ、下図1のとおりとなります。

図1 河川水と地下水の利用比率



出典 愛知県：愛知県土地水資源調査

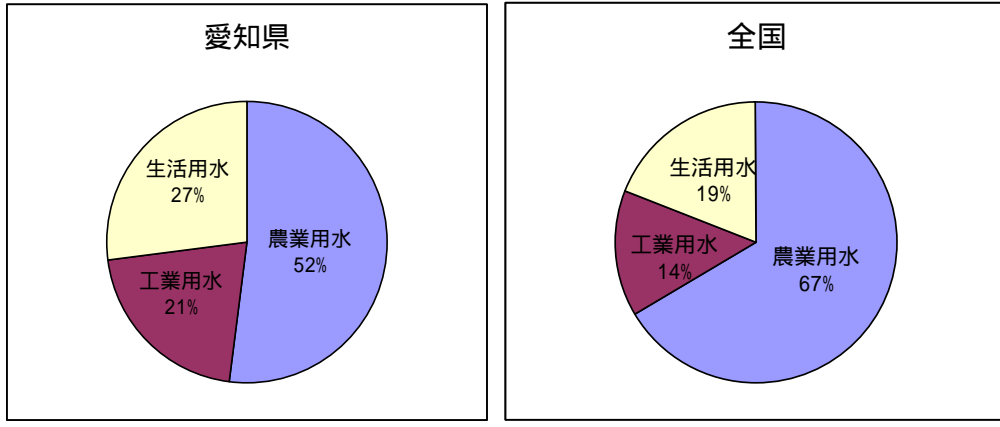
全国：日本の水資源（国土交通省）

この図によれば、本県の河川水と地下水の比率は概ね全国平均となっています。

#### (2) 利用目的別の内訳

本県の水利用について、その利用目的の比率に着目し全国データと比較したところ、下図2のとおりとなります。

図2 河川水と地下水の利用比率



出典 愛知県：愛知県土地水資源調査

全国：日本の水資源（国土交通省）

注）養魚用水は農業用水に含む。また、工業用水の生活用依存分は工業用水に含む。

この図によれば、本県は全国平均と比べて農業用水の占める割合が低いといえます。

## 2 アンケート結果（女性のみを集計結果）

### （1）水辺での活動等について

#### （ア）水辺へ出かける頻度

女性のみでは、「行かない」と答えた人の割合が大きく、「ほぼ毎日」や「週に数日程度」などの出かける頻度が高い人の割合も小さくなっている。

問3-1 どの程度の頻度でそこへ行きますか

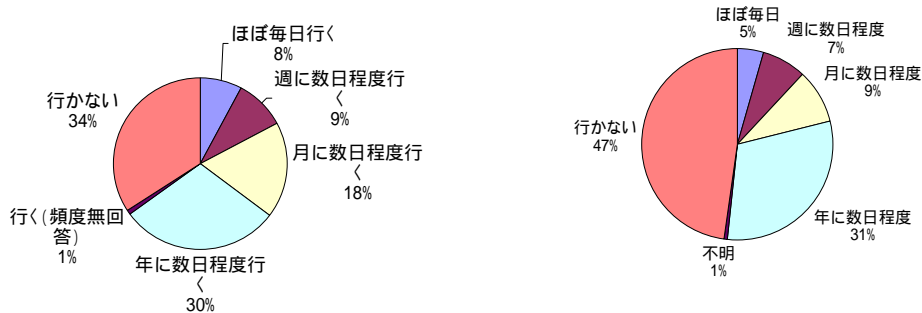


図 2-1 水辺へ出かける頻度（左：全体、右：女性のみ）

#### （イ）水辺での活動

水辺などへ行くと答えた人の出かける場所は、全体と同様の傾向を示している。

問3-2 それほどのようなところですか  
(主なものを一つ選んでください)

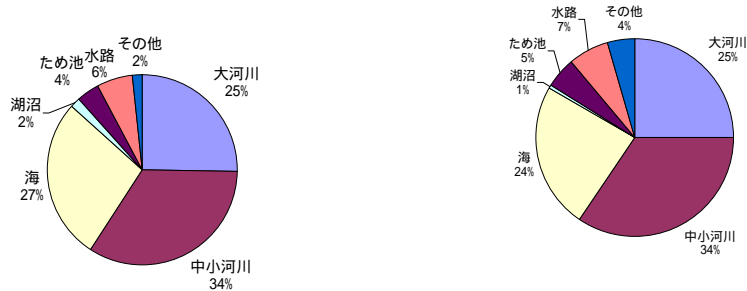


図 2-2 出かける場所（左：全体、右：女性のみ）

水辺での活動は、「散歩」が6割近くを占めているのは同じであるが、「水遊び」の割合は女性のみの方が大きく、「釣り」の割合は小さくなっている。

問3-3 そこで何をしますか  
(主なものを一つ選んでください)

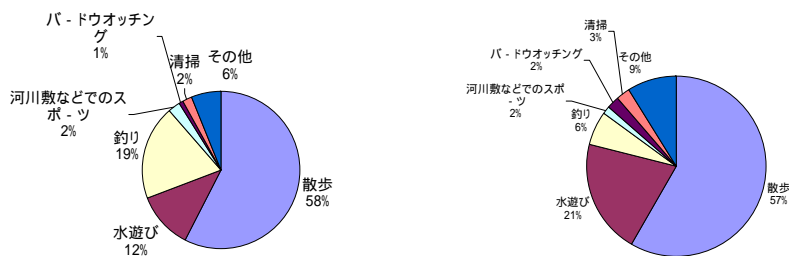


図 2-3 水辺での活動(左：全体、右：女性のみ)

水辺への距離については、全体では「車で行ける程度」と答える人が最も多く、次に「歩いていける程度」が続いており、全体と同様であった。

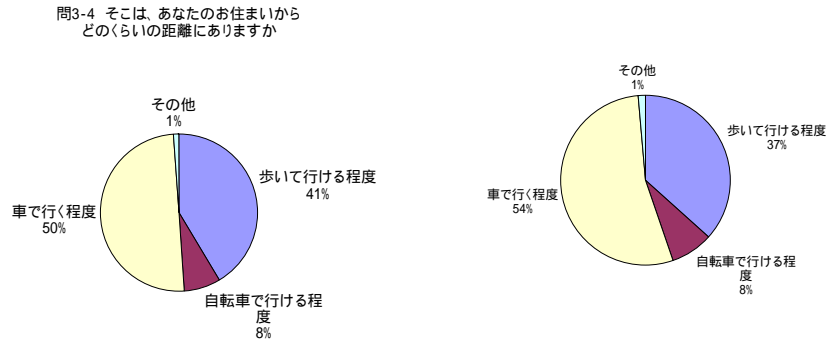


図 2-4 出かける水辺の距離 (左：全体、右：女性のみ)

### (ウ) 水辺のよいところ

水辺などへ行くことがあると答えた人に、そこのどういうところがよいと思うかを尋ねたところ (複数回答あり) 全体と同様の傾向を示した。ただし、「水遊び」については女性からの支持が高く、「釣り」については逆に女性からの支持が低い。

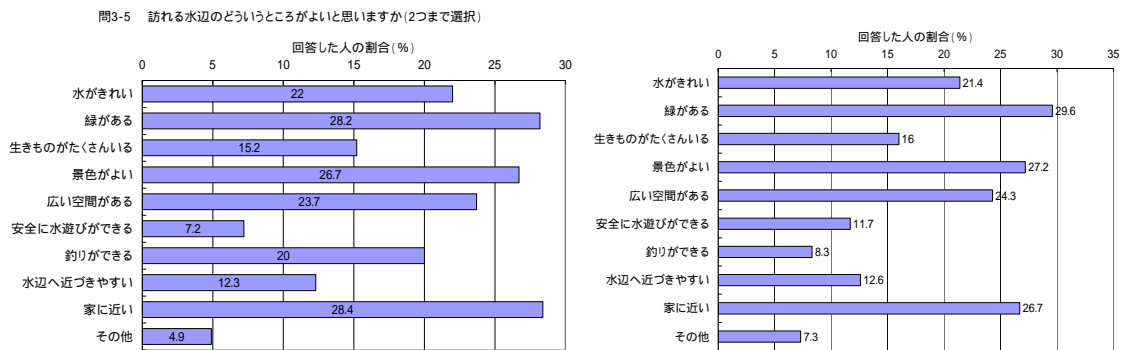


図 2-5 出かける水辺のよいところ (左：全体、右：女性のみ)

### (エ) 水辺への不満

水辺へ行く、と回答した人のうち、不満があるとしたらどういうところが訊ねたところ (複数回答あり)、全体的に、ほぼ同様の傾向であった。ただし、「水遊びをするには危ない」「水辺に近づきにくい」や「家から遠い」を挙げた人の割合は、女性の方が大きかった。

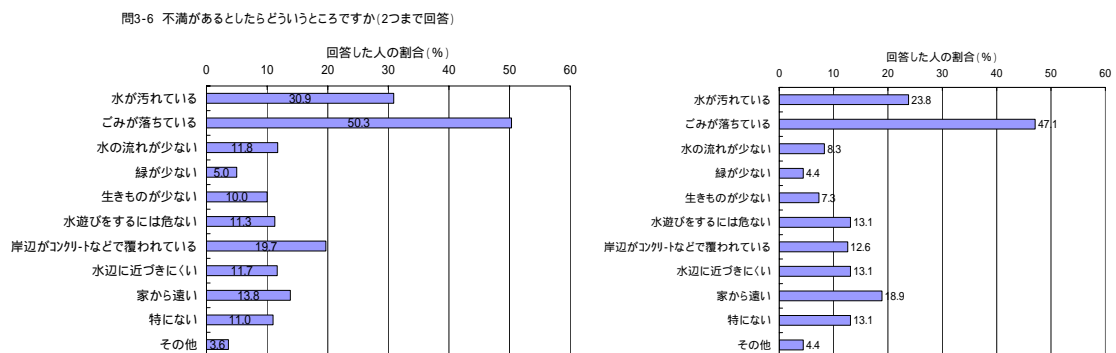


図 2-6 水辺への不満 (左：全体、右：女性のみ)

一方、水辺などへ行くことがないと答えた人にその理由を尋ねているが、これについても、全体と同様の傾向である。

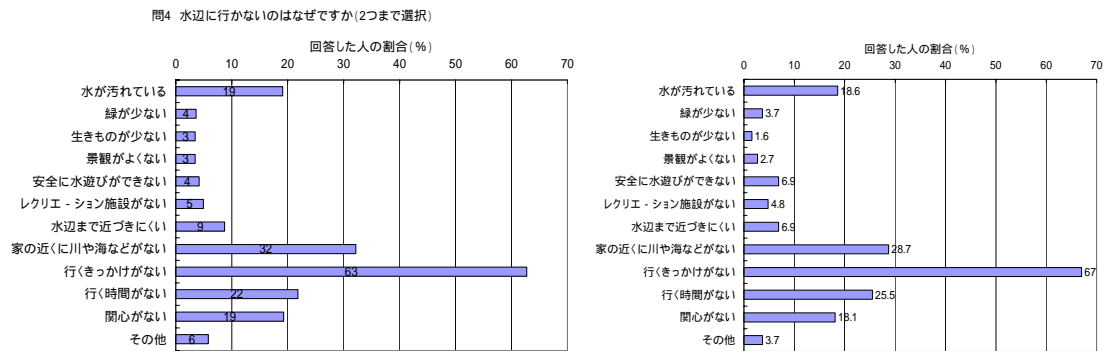


図 2-7 水辺へ行かない理由

(2) 水辺の水質、水量について

(ア) 水辺の水質

想定している水や川の水質をどのように感じているかについても、全体と同様の傾向である。

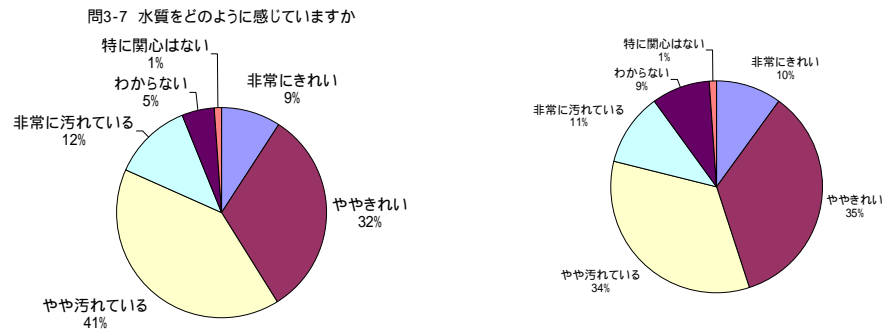


図 3-1 水辺の水質

(イ) 水辺の水が汚れている理由

全体と同様の傾向を示している。

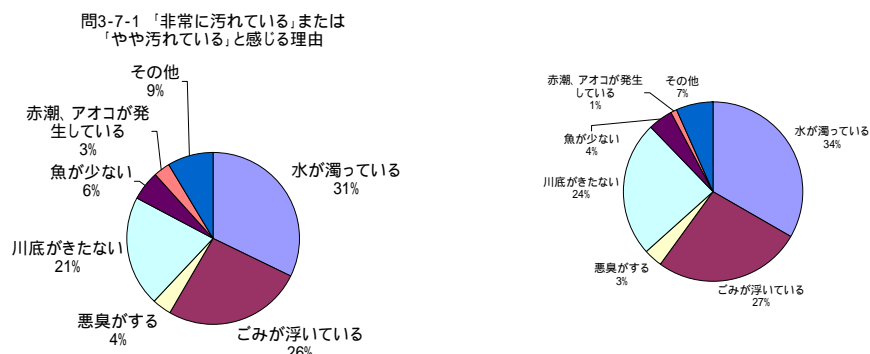


図 3-2 水辺が汚れていると感じる理由 (左: 全体、右: 女性のみ)

(ウ) 水辺の水量

「普通」と感じている人の割合が、女性の方がやや大きい。

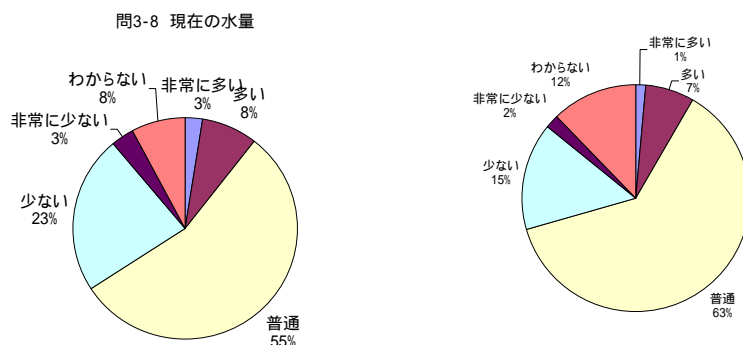


図 3-3 水辺の水量 (左：全体、右：女性のみ)

(エ) 水辺の水量として希望するレベル

水辺の水量が「非常に少ない」または「少ない」と回答した人に水辺の水量として希望するレベルを尋ねたところ、全体と同様の傾向を示している。

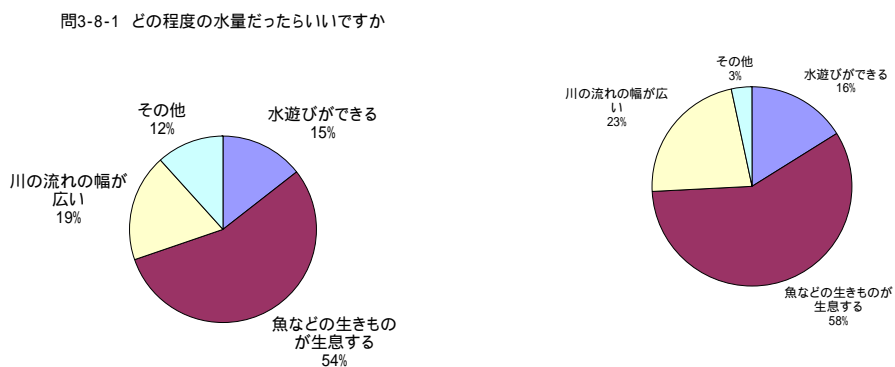


図 3-4 水量として希望するレベル (左：船体、右：女性のみ)

(3) 水辺の緑、生きもの、景観について

(ア) 水辺やその周辺の緑について

全体とほぼ同様の傾向を示している。

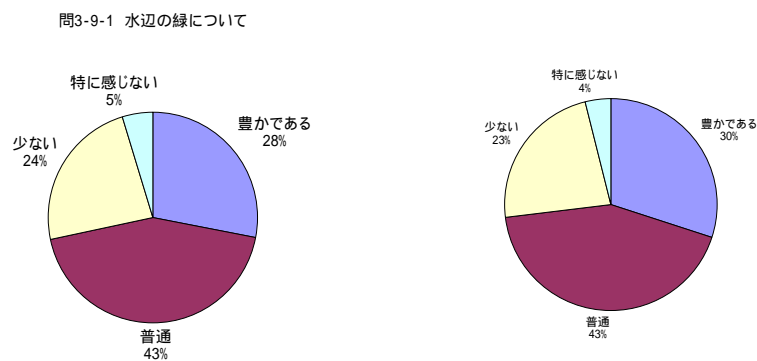


図 4-1 水辺の緑 (左：全体、右：女性のみ)

(イ) 水辺の生きものについて

「少ない」と回答した人の割合が最も高く 42.0%であり、「普通」が 39.2%である。地域別にみると、どの地域も同様の傾向を示している。

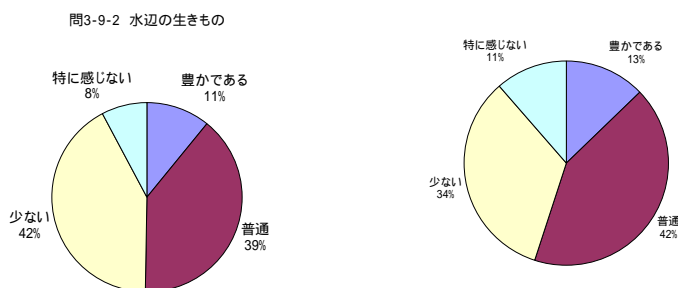


図 4-2 水辺の生きもの（左：全体、右：女性のみ）

(ウ) 水辺の景観について

「普通」と回答した人の割合が、女性の方がやや多くなっている。

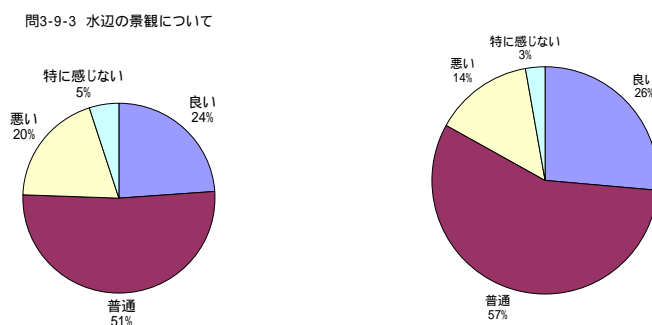


図 4-3 水辺の景観（左：全体、右：女性のみ）

(エ) 水辺の緑、生きもの、景観について

女性の場合も、現状に対して県民の評価が低いのは、「生きもの」「緑」「景観」の順である。

(4) 水辺の保全活動について

(ア) 水辺をよくするためにできること

全体と同様の傾向を示している。

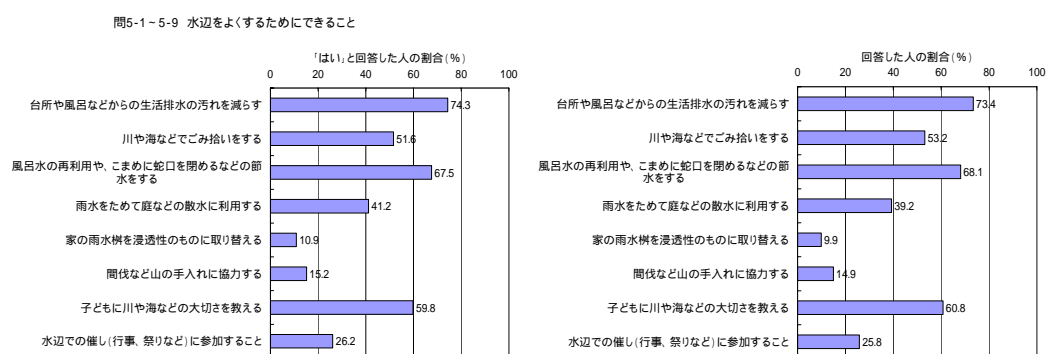


図 5-1 水辺をよくするための取組（左：全体、右：女性のみ）

(イ) 保全活動への参加

全体と同様の傾向を示している。

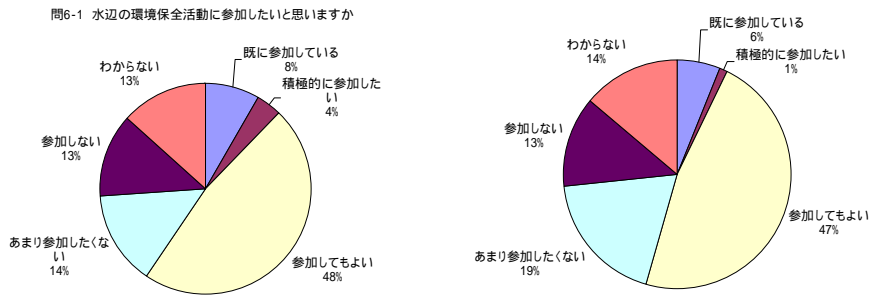


図 5-2 環境保全活動への参加(左：全体、右：女性のみ)

(ウ) 環境保全活動参加への促進策について

環境保全活動に参加しやすくするためには、「一緒に活動する仲間がいることが」や「活動をはじめするための情報入手」については、重要であると考えている人の割合が女性のほうが大きい。一方、「行政などが住民による活動を支援すること」や「個々の活動についての情報交換」が重要であると考えている人の割合は、女性の方が小さい。

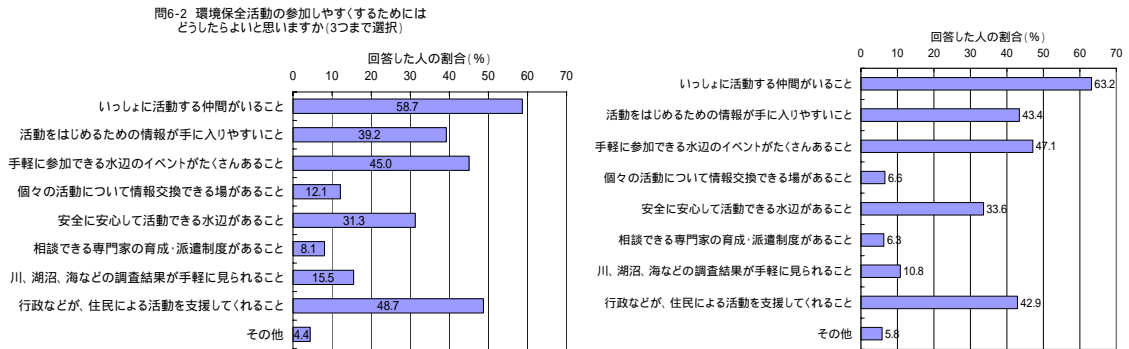


図 5-3 環境保全活動促進策(左：全体、右：女性のみ)

(5) 費用負担について

(ア) 費用負担意志について

全体と同様の傾向を示している。

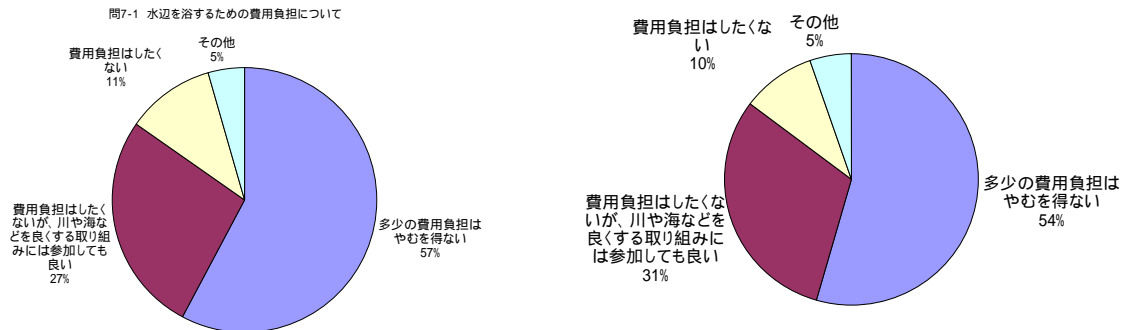


図 6-1 費用負担について (左：全体、右：女性のみ)

(イ) 費用負担額について

水辺をよくするために、多少の費用負担はやむを得ないとした人に、環境保全の費用負担額について「100円/月程度」「500円/月程度」「1,000円/月程度」「わからない」の4段階で尋ねた。女性は、「100円/月程度」と答えた人の割合がやや大きいですが、その分「500円/月程度」「1,000円/月程度」と答えた人の割合が少ない。

問7-2 費用負担はどの程度までなら行なうことができますか

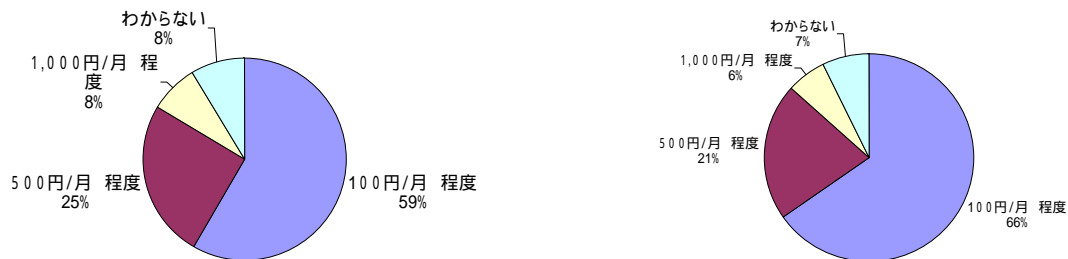


図 6-2 費用負担額